上唇部に発生した成人型黄色肉芽腫の1例

津田 高司・待田 順治・飯田 征二*

内田 吉保*・松矢 篤三*

A case of adult xanthogranuloma of the upper lip

Takashi TSUDA・Junji MACHIDA・Seiji IIDA*

Yoshiyasu UCHIDA*・Tokuzo MATSUYA*

Key words: 成人型黄色肉芽腫 (adult xanthogranuloma), 上唇 (upper lip)

緒 言

黄色肉芽腫は、黄色腫症のひとつに分類され、組織球への脂質沈着を伴うことを特徴とする炎症性肉芽腫性病変である。本疾患の多くは皮膚科領域において報告されているが、その発現頻度は低いものであり、特に口腔領域に発生することはきわめてまれな疾患である。

今回われわれは、高コレステロール血症を有する患者の上唇粘膜に発生した黄色肉芽腫の1例を経験したのでその概要を報告する。

症 例

患 者：59歳 女性。

主 訴：左側上唇部の腫脹。

現病歴：左側上唇粘膜下の腫瘤を認め、昭和63年1月[]耳鼻咽喉科にて腫瘤摘出術を受け、病理組織学的に黄色肉芽腫の診断をうけた。術後1か月を経過した頃より同部の腫瘤の再発をみ、歯科疾患との関係について精査をすすめられ同年7月[]日[]歯科口腔外科を受診した。

既往歴：全身性エリテマトーデスにて、内科において治療を受けている。副腎皮質ホルモン投与による続発性と思われる高コレステロール血症を有し、初診時のコレステロール値は 259 mg/dl と高値を示していた。

初診時局所所見：|3| 根尖相当部の齦唇移行部粘膜下

大阪通信病院 歯科口腔外科

(主任：待田順治部長)

* 大阪大学歯学部口腔外科学第一講座

(主任：松矢篤三教授)

Department of Dentistry, Oral and Maxillofacial Surgery, Osaka Teishin Hospital (Chief: Junji Machida)

* The First Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Osaka University Faculty of Dentistry (Chief: Prof. Tokuzo Matsuya)

受付日：平成4年8月20日

写真 1 再発時局所所見

腫脹範囲を破線にて明示している。

に、小指頭大の境界明瞭な弾性硬の類球形の腫瘤の存在を触知した。粘膜は正常色を呈しており、また、同部の圧痛は認められなかった。

|3| は残根状態で、X線写真にて根尖病巣の存在が認められた。

初診時臨床診断：黄色肉芽腫の再発の疑い。

処置および経過：昭和63年10月[]日局所麻酔下にて、腫瘤摘出術を施行した。腫瘤は周囲組織と一部癒着しており、表面はやや黄色を帯びた 15×8×5 mm で弾性硬であった。摘出に際し、腫瘤より少量の排膿を認め、また腫瘤と |3| 根尖部との連絡が観察された。摘出物は病理組織学的には組織球への明瞭な脂質沈着は観察されず、慢性炎症性肉芽腫の診断を受けた。術後8か月を経過した頃より再度腫脹を認め、平成元年6月[]日に当科を再度受診した。上唇の腫脹は前回に比較して広範囲であり、白唇部に一部赤発を伴っていた(写真1)。腫瘤の存在部位は前回摘出部と同様であり、その大きさは示指頭大であった。6月[]日に局所麻酔下にて再度摘出術を施行し、さらに原因歯と考えられる |3| の根尖病巣の搔爬を併せて行った。摘出物は、25×10×10 mm で表面は黄色を呈していた。内容液は観察されず充実性を呈していた。

病理組織学的所見：肉芽組織内に脂質を含んだ組織球

写真2 病理組織像 (H-E 染色 強拡大)

の著明な増殖を認める (写真2)。

病理組織学的診断: 黄色肉芽腫。

考 察

黄色肉芽腫は生体内のコレステロールを主体とした脂質代謝異常に起因する疾患である黄色腫の1つとして分類され、組織学的には幼弱な肉芽組織あるいは線維性硬化性病巣内に中性脂肪、コレステロールとそのエステルを含む泡沫細胞の著明な増殖に組織球、線維芽細胞の浸潤を伴う疾患である。本疾患は乳幼児期に発生することが示されていたが、成人においても発生することを Gartmann ら¹⁾が報告して以来、発生年齢により若年性黄色肉芽腫と成人型黄色肉芽腫に分けられており、自験例は後者に分類される。成人型黄色肉芽腫の多くは皮膚科領域において報告され、頭部、顔面、ならびに上肢が好発部位とされているが^{2,3)}、その発生頻度は低いものである。特に本疾患が口腔内に発生することは非常にまれであり⁴⁾、若年性の症例を含めてもその報告はきわめて少ない⁵⁻⁷⁾。

黄色肉芽腫は外傷や炎症により、反応性に増殖した組織球に対し局所の代謝異常から2次的な脂質沈着を伴うことにより生じると考えられている⁸⁾。そのため従来より高脂血症などの全身的な脂質代謝異常の関与が示唆されているが、過去の報告を統計的に検討を行った報告^{2,3)}では全身的な脂質代謝異常を伴った症例は少ない。また、誘因となる炎症の既往があきらかな症例も少なく、本疾患の成因について明解に記した報告は少ない。

自験例は長期に渡る副腎皮質ホルモン投与療法により

続発的に生じたと思われる高コレステロール血症を有した症例であり、また、摘出に際し病変と根尖病巣との連絡が確認されたことから、根尖病巣が誘因となったものと考えられる。そのため、自験例は全身的な要因ならびに、誘因となる局所の炎症がともに観察された症例と考えられる。また、組織学的には当科での初回摘出物には組織球の脂質沈着が観察されなかったのに対し、再発時の摘出物においては脂質の沈着が観察されていた。このことから、再発時に観察された組織球への脂質沈着が肉芽腫形成後に2次的に生じた可能性を示すものであり、前述した本疾患の成因を典型的に示した症例と考えられた。

結 語

今回われわれは高コレステロール血症を有する患者の上唇粘膜に発生した、成人型黄色肉芽腫の1例を経験したのでその概要を報告した。

引 用 文 献

- 1) Gartmann, H. und Tritsch, H.: Hein-und grolknottes Naevoxathoendotheliom. Arch klin exp Dermatol 215: 409-421 1963.
- 2) 檜垣修一, 高橋省三, 他: Adult Xanthogranuloma. 皮膚臨床 29: 313-317 1987.
- 3) 川島 香, 北畠雅人, 他: 成人型黄色肉芽腫の一例. 臨皮 41: 177-180 1987.
- 4) Takeda, Y., Suzuki, A., et al.: Xanthogranuloma of the oral cavity in adult. —A case report and review of the literature—. Acta Pathol Jpn 36: 1565-1570 1986.
- 5) 武田泰典, 工藤啓吾: 口底部に生じた若年性黄色肉芽腫の1例. 岩医大歯誌 11: 316-319 1986.
- 6) Kjaerheim, A. and Stokke, T.: Juvenile xanthogranuloma of the oral cavity. Oral Surg 38: 414-425 1974.
- 7) Christensen, R.E., Hertz, R.S., et al.: Intraoral juvenile xanthogranuloma. Oral Surg 45: 586-590 1978.
- 8) 辻 龍雄, 中島嘉助, 他: 顎下部に発生した黄色肉芽腫の1例. 日口外誌 33: 1958-1961 1987.